虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹の架橋

第３２１号
令和４年５月１日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277－73－1212
Fax 0277－70－1066

今月の題字
富澤均さん
（桐生市広沢町）
ＯＫバジを支援する会の会長で富弘美術館を囲む会の仲間でもある均さんとはお父様の代からの長いご縁。誠実で尊敬する友人です。

旧小林眼科洋館を改修 コミュニティ施設として活用

昭和初期、大間々駅前停車場通りに建てられた洋館がコミュニティ施設に生れ変わりました。

戦後まもなく、この建物で眼科医院を開業した元軍医の小林哲先生は、昭和二十三年頃から約五十年間、大間々町の学校医として地域医療に貢献されてきました。

「三方良し」の会では、「建物を地域の為に活用してほしい」という所有者の意向を受け、会が積み立ててきた会費とみどり市の空き店舗対策の補助金を利用して改修工事を行いました。コミュニティ施設として利用するのは一階の待合室と診察室。玄関を入ると、昭和レトロの雰囲気が漂う照明や、診察室、薬室、暗室などの表示が目に入り、当時の治療道具なども展示してあります。

連休中の午前中は、みどり市観光ガイドの会の協力で建物の内部を公開します。また、五月十日十時から十四時までは、くつろいだ雰囲気の中で育児相談や健康相談、血圧測定等を行う「みんなのほけんしつ」を開催する予定です。この施設を多くの方々に利用していただき、地域活性化の一助になれば幸いです。

小耳にはさんだ いい話 《321》

（文責・靖）

ハガキ一枚の力

今から二十九年前、単身でネパールの寒村に移住し、村々への支援活動をはじめたＯＫバジこと垣見一雅さんは、長年の活動が評価され、ネパール暦の一月一日（四月十四日）にネパールの大統領から勲章を授与されました。その時の報告と写真がメールで送られてきました。「大統領や首相をはじめとしてお偉方がずらりと並んでいる前で、一人一人の名が呼ばれ、簡単に活動内容が説明され、大統領からメダルを受け取りました。今回私が着ているものは上から下まで全て村人達がプレゼントしてくれたものです。着せ替え人形ぶりをご覧ください。・・・今年は帰国できることを楽しみにしています」

桐生市の富澤繁司さんと垣見さんは三十数年来の友人で、垣見さんがネパール移住を決めると同時に、物心両面の支援を開始、桐生で「ＯＫバジを支援する会」を立ち上げました。小さな善意の累計は桐生の会だけで六千三百万円を超えました。今では全国に支援団体が誕生しており、富澤さんも天国でさぞ喜んでいると思います。

ＯＫバジは『からっぽがいい』という著書の中で、「毎年、父の日にネクタイを買う代金の中から、千円寄附してくださる方がいる。ある年、その千円で山奥の子どもたち五十人に、一冊二十円のノートを買ってプレゼントした。子どもたちがそのノートを高く上げた姿を写真に撮り、寄付してくれた方に送った。彼女は自分の千円がこんな形で活かされたと、喜びの手紙を送ってくれた。それを受け取った私も、さらに嬉しくなり、お礼のハガキを書いた。喜びのキャッチボールである。この種の喜びが私を励まし、私を生かしてくれた。私がたくさんの団体、個人の方から支援金をお預かりできたのは、一見小さく見えるハガキ一枚の力だと信じている」、という話の通り「寄付をするならＯＫバジへ」という方が増えています。

六月四日午後二時、ＯＫバジが三年ぶりに桐生に来て、文化会館で活動報告会を開催する予定です。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の絵手紙《３２１》

冨田栄子さん『暴れん坊やっちゃん』

鳩ケ谷市（現川口市）と大間々町が姉妹都市になったことがきっかけで出会った冨田栄子さんとは二十五年以上のお付き合いになります。冨田さんも鳩ケ谷で「おしゃべりジャーナル」という地域情報紙を二万万部も発行していたので、共通の話題ですぐに意気投合しました。

毎月、虹の架橋を送ると、欠かさずユーモア溢れるイラスト入りの感想ハガキが届きます。冨田さんからの絵手紙は、虹の架橋の歴史でもあり、二百号、三百号の記念誌にも挿絵としてたくさん使わせていただいています。

靖ちゃん日記

令和四年四月十日（日）

四国の南海放送ラジオで毎週日曜に放送している長寿番組「ラジオエッセー・くめさんの空」をスマホのラジコという機能を使って欠かさず聴いている。小倉くめさんのことを知ったのは二十年前。「秘めだるま」という季刊誌を読んで感動して、どうしてもくめさんに会いたくて、松山まで二度、出かけて行った。

「秘めだるま」と「くめさんの空」は、日本人としての正しい生き方を素朴な愛媛の久万弁で、やさしく教えてくれている。

今日は、「追慕の日」というコーナーで虹の架橋四月号の「早逝の母に護られ古希の春」の句と、それにまつわるエピソードを全国のリスナーに紹介してくれた。スマホを仏壇に向けてもう一度聴き直した。ラジコは日本中の放送を聴きたい時に何度でも聴くことができる。何度でもできるドラえもんのような存在。でも、ドラえもんはラジコではなく、フジコ（藤子不二雄）だった。

新緑や「め」の字納むる薬師堂

今から四百二十年前に大間々の町を開いたとされる「大間々六人衆」の一人、長澤伊織は敷地内に薬師堂を建立しました。以来、この町では、眼病治癒の仏様として崇められ、「め」の字を九つ書いて長澤薬師様に奉納すると眼病が治ると言い伝えられてきました。このたび長澤家によって薬師堂の祠が建て替えられ、七年前に祠の前に「三方良し」の会が植えた紅しだれ桜は花が終わり、新緑の美しい季節になりました。新緑は疲れた目も癒されます。まま通り角の木戸商店の隣に赤い幟旗が立っています。

虹の架橋 ⇑ 検索 で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百二十二号は令和四年六月一日（水）発行予定です。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん